

脳死下臓器提供した家族の思いに関する研究

研究分担者 山勢 博彰 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻 教授

研究要旨：

我々が作成した脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドラインでは、家族が求める看護や家族が必要とする支援などにどれだけの根拠があるのか明確になっていない。そこで、脳死下臓器提供した家族が求める看護と退院後の支援について明らかにすることを目的に、脳死下臓器提供した患者家族の4名を対象に、インタビュー調査を実施した。その結果、入院中に医療者にしてもらってよかったこととしてほしいこと、および、退院したあとにしてほしいことが明確になった。こうした家族の思いを捉え、脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドラインで示された家族への対応の重要性が認識された。

A. 研究目的

これまで、脳死下臓器提供した患者家族の看護実践を調査し、脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドラインを作成した。ガイドラインでは、脳死下臓器提供の患者家族ケアを実践した看護師を対象に調査し、臨床で実践できる項目を示した。しかし、そこには、家族が求める看護や家族が必要とする支援などにどれだけの根拠があるのか明確になっていない。

本研究の目的は、脳死下臓器提供した家族が求める看護と退院後の支援について明らかにすることである。

B. 研究方法

脳死下臓器提供した患者家族の4名を対象に、インタビュー調査実施し、脳死下臓器提供した家族が求める看護と退院後の支援について明らかにする。

（倫理面への配慮）

インタビュー対象の氏名や臓器提供の詳細な情報は明示せず、回答内容そのものをまとめた。本研究の倫理審査は、山口大学の倫理審査にて承認を得ている。

C. 研究結果

1、入院中に医療者にしてもらってよかったこと、してほしいこと

①看護師長さんより食事について配慮いただいた

ことがとてもありがたかったです。

②看護師さんの対応が悪いかではないですが、もう少し話しかけてくれてもいいかなと思いました。

③医師は、細かく説明していただき考える時間も与えていただき、丁寧に対応してくれました。

④常に、主人のそばにいれるようにしていただきました。いつでも、24時間面会させてくれ、ありがたかったです。

⑤師長さんが私の表情や姿をみて、いつも気にかけてくれたことがうれしかったです。

⑥面会時間も決まっていて、1人しか面会できなかった。しかも、15分しか面会できなかった。もう少し面会できる時間を長くして欲しい。

⑦主治医が非常に丁寧に説明していただいたので、感謝しています。

⑧先生から脳死という言葉を知りましたが、イメージが湧かないので理解が難しかった。それが臓器提供にどうつながるのか詳細な説明が欲しかった。

⑨リハビリの先生が私の面会に合わせて時間を入れてってくれて、大変な気遣いをして頂いたことに感謝している。

⑩臓器提供について全く考えが浮かばなかった。主治医の先生がから脳死という言葉を知り限りは、私、臓器提供なんて浮かばなかったと思う。

⑪脳死という言葉を知っても、イメージが湧かないと、理解がちょっと難しいです。人間が脳死って聞いても、なんのことかわからない。なので、詳細

な説明が欲しかった。

⑫主治医の先生が図を書いて説明してくれたので、脳死と臓器提供の理解ができました。

⑬脳死と聞いてから、もう繰り返し繰り返しどうして助からんの。なんで助けてくれんの。どうして、どうして、どうしていいのかと紋々とすごした。なので、より詳細な説明が欲しかった。

2、退院したあとにしてほしいこと

①毎日、家のこと仕事に追われているため、臓器提供のことや、なぜ亡くなることになったのか、病気のことも含め話してもらえる機会があればと思います。

②子供たちに対し、病院の主治医の先生に話をしてもらいたいです。

③以前、臓器提供したご家族の方が、お坊さんに「臓器提供したら成仏できない」とか言われてショックをうけてました。なので、もう少し臓器提供した人が傷つかないようにしてほしいです。

④病院から 連れて帰る時に、多くの医療者の方が集まっていたいて、お見送りいただいたのは感激しました。

⑤主治医の先生が優しい先生でした。退院した後もその優しさを続けて欲しいです。

D. 考察

今回のインタビュー調査では、家族の思いを十分に理解した上で、看護と医療チームが真摯な態度で十分な説明と心からの配慮が必要なことがわかった。脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドラインでは、1.脳死下臓器提供における手順書、マニュアルの確認(脳死下臓器提供のフローチャートに沿って看護を実施する、施設独自の看護基準・手順に沿って看護を実施する)。2.患者と家族に対して共感的・支持的態度で対応する(患者と家族の人権を尊重し、アドボゲーターとしての役割を発揮する、家族の立場を理解し、共感的態度で接する)。3.患者や家族の身体的・心理的・社会的な苦痛を把握し、苦痛緩和に努める(家族が認識する患者の苦痛を緩和する、家族の身体的、心理的な苦痛を緩和する)。4.家族と医療者、コーディネーター間の連携を図る(臓器提供に必要な情報を共有する、医療者、院内および移植コーディネーターと協働し家族への連絡体制を整える、専門

看護師や認定看護師、ソーシャルワーカー、公認心理師等の職種と連携する)。5.医療チームでケアに取り組めるよう支援する(円滑な医療チームが発揮できるように調整する)。以上の5つの役割がある。脳死下臓器提供した家族への看護で重要なのは、家族に対して共感的・支持的態度、家族の身体的・心理的・社会的な苦痛を把握し、苦痛緩和に努める事の重要性を改めて認識することができた。

また、ガイドラインでは、看取り、家族への悲嘆ケア、尊厳の遵守、代理意思決定支援の重要性も示している。こうした対応をまんべんなく実施し、家族の思いを十分に理解した上で家族が不満無く対応できるようにケアすることが重要である。

E. 結論

今回の脳死下臓器提供した家族へのインタビュー調査により、入院中に医療者にしてもらってよかったこととしてほしいこと、および、退院したあとにしてほしいことが明確になった。こうした家族の思いを捉え、脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドラインで示された家族への対応の重要性が認識された。

F. 健康危険情報

無し。

G. 研究発表

無し。

H. 知的財産権の出願・登録状況

無し。